

巻頭言

日本労協連から学び、韓国労協連が目指すこと

ソン・インチャン(宋寅昌)(韓国労働者協同組合連合会 会長)

6月17日から19日に韓国訪問をしました。その際に、韓国労働者協同組合連合会のソン・インチャン会長の出身組織である、「Happy Brigde」に訪問しました。その際に、4月19日に創立された韓国労協連が目指すことなども含めて、話をいただきましたので、紹介をします。(2014年6月18日訪問時のインタビューより。通訳はカンネヨン氏。原稿データは相良が作成しました。)

皆さん、ようこそいらっしゃいました。日本労協連からはここに来られることは初めてだと思います。逆に遠いところでは今まで「スペインのモンドラゴン」「フランス労協連」がここに訪問をしていただきました。日本は近い国であるので、今後、頻繁に交流ができればと思います。今まで地域自活センターとは、日本労協連は交流してきましたが、韓国労協連もできたし、これからは韓国労協連と日本労協連の交流も進めていきたい。今回は、その第1歩として、協力の場をつくれればと思います。

昨年、日本労協連に視察にいきましたが、日本労協連を考えると、私たちと比べると大人と出会っている感じがします。なぜそ

う思ったのかといえば、長年かけて、自分たちの原則やアイデンティティを守りながら、いろんな活動をしてきたことからです。4月に創立した韓国労協連は日本から学ばなければならないと感じています。まだ韓国労協連は初期の段階なので、一定期間は交流といっても、韓国側が一方的に学ぶ姿勢で、交流をする形となりますが、多くのことを教えていただければと思います。

韓国には自活企業、社会的企業、そして労働者協同組合もあるので、それぞれが少しずつ性格が違うという状況になっています。社会的企業もふまえて、労働者協同組合方式で進めていきたいと考えています。韓国労協連は、韓国労協連としての独自の原則を立てていこうと考えています。韓国の労働者協同組合の伝統的な支持基盤である、自活企業や社会的企業と一緒に、公共領域の市場領域での拡大をしていきたいと思っています。

そして労働者協同組合は、韓国の大きな社会問題である「青年の失業問題」について解決する中心的な柱として、労働者協同組合方式で、仕事を起こすことを行っていきたいと思っています。特に若者の仕事おこし

に向けて考えているのは、若者が協同組合方式で、市場で競争力を高めるためにどうすることが必要なのか。これを協同組合方式で行ったときに、どのような強みがあるのかということデザインすることに関心があります。

今、話をしたことをまとめますと、私が韓国労協連として行いたいことは3つあります。

1、韓国労協連の原則をつくる。日本の労協連からアドバイスをいただき学びます。

2、日本労協連が経験してきた公共領域での活動や事例を学ぶながら、韓国でも多くの事例をつくっていききたい。

3、若者の仕事づくりに向けたビジネスモデル。競争力を高めることを日本労協連とも議論しながらつくっていきたいと考えています。

協同組合は、信頼をもとに発展しないといけないので、着実にやっていきたいと考えています。